

平成 22 年 6 月 21 日現在

研究種目：若手研究 (B)
 研究期間：2008～2009
 課題番号：20730519
 研究課題名 (和文) 近代日本における児童教育雑誌の成立と読者共同体の成立過程に関する研究
 研究課題名 (英文) A Study of the formation of infants(boys and girls)magazines and the organization of Reader's community of magazines for domestic kindergarten infants and Elementary schools in modern era
 研究代表者 田中 卓也 (TANAKA TAKUYA)
 吉備国際大学・社会福祉学部・講師
 研究者番号：90430540

研究成果の概要 (和文)：

(1) 明治期以降の読者意識の性格・特徴は、「国家主義」・「良妻賢母」・「立身出世」思想に裏打ちされていた。投稿者は勉学・作品投稿で切磋琢磨し絆を深めた。(2) 『子ども読者』年齢層は幼稚園児～小学校高学年迄が多かった。(3) 『読者共同体』は愛読者の自然な結びつきであり男女により特徴に差異があった。「児童」の意義は明治期では主に「少年」に近い意味で使用され、大正期以降は「小学生以上の少年・少女」に変化した。

研究成果の概要 (英文)：

(1) These characters and creatures of infants magazines readers their style and consciousness have theirs roots in “nationalism” “Careerism” and “a good wives and wise mothers” devoted Pals were competing with other many readers for the learning and bonds of works of arts, literary works, and so on. (2) The ages classes of theirs readers were almost from infants to students in the higher Grades. (3) the unite of “Readers communities” were regular contributed various creatures of difference based on sex. “Children” book in MEIJI era, equaled to using the words of meaning of “SHOUNEN” moreover, changed equaled to using the words of meaning of More than elementary school from TAISHO era gradually.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	500,000	150,000	650,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,200,000	360,000	1,560,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：児童文学・読者共同体・読者意識・日本教育史・子ども・児童雑誌・作家 (作品)

1. 研究開始当初の背景

児童教育雑誌がわが国に登場するのは、明治期中頃といわれ、少年雑誌・少女雑誌などが多く発刊されていた。この時期に「読者する子ども」たちが登場した。しかしながら明治期の雑誌の特徴として、裕福な家庭に育った子どもらは、購読できる金額ではあったが、一般庶民にいたっては、いまだ購読できない状況にあった。また小学校の就学率についても、義務教育延長が実現しても90%台にとどまり、「国民皆学」という明治政府の教育方針にはほど遠い状況にあった。時代を経て大正期になると、これまでの子どもに対する教育観に変化が起こった。「大正自由教育」がまさにその典型である。この教育思想の流入により、子どもらの教育雑誌に革新が巻き起こることとなった。この時期はまさに、空前の児童文芸雑誌の時代であった。この時代の波のなかで『赤い鳥』・『少年倶楽部』・『金の船』（のちに『金の星』と改称）などの雑誌が相次いで発刊され、第二次世界大戦が終結する昭和戦前期まで、子ども読者を次第に増加させたのである。

子ども読者の増加については、小説・物語はもとより、付録懸賞への応募などが大きな要因であったといわれる。しかしながら読者が児童雑誌を愛読するようになると、自らを「愛読者」と称し、他の読者仲間との交流を求めようになった。そこで雑誌の「投稿欄」を見ると、投書によって、愛読者らと交流を図り、「読者ネットワーク」を結成するようになった。また、そこには目には見ることのできない、想像上での「読者共同体」なるものが形成されていたのである。最後にこの研

究を通じて、現代における子どもたちの「学ぶ」意欲向上のための方策の一助となれどと考えている。

2. 研究の目的

本研究の目的と2年間で明らかにしようとする事項は以下のとおりである。

明治期から昭和戦前期までに刊行された児童教育雑誌を扱い、本研究では2年間で以下の3点の事項について明らかにしたいと考える。

(1) 明治期から昭和戦前期に発刊された児童教育雑誌を考察し、児童教育雑誌の特徴を分析し、その特徴を明らかにする。明治期から発刊された児童雑誌は数多く存在する。なかでも子ども読者が多かった少年・少女雑誌を取り上げ、各雑誌の特徴について分析を試みる。また明治・大正・昭和と三時代に跨るため、各時代における児童雑誌の特徴についても明らかにする。

(2) 明治期から昭和戦前期における「子ども読者」の年齢層およびその特徴を明らかにする。子ども読者とはいえ、当時その年齢層はかなり幅広いものであった。また児童雑誌の多くが、「子ども向け雑誌」ではあるものの、読者の年齢には制限がなかった。このことを明らかにするために、各雑誌の「読者投稿欄」に焦点を当て、精緻な分析を試みることで、ある一定の年齢層にまで絞りこむためにその検証に力点を置く。さらに雑誌の読者には、いろいろな性格・事情・境遇を持った者が存在していたことから、なぜその雑誌を読むことになったのかについての動機・理由などについても可能な限り分析する。

(3) 想像上の「読者共同体」の形成過程を考

察し、その特徴について明らかにする。「読者投稿欄」には、読者のたより、短歌・俳句などの文芸的作品、懸賞応募原稿など様々な内容が掲載された。それは読者にとって、新しいコミュニケーションの場所であった。また読者同士や記者や編集者に対し、作品や作家の感想およびメッセージなどを投書することで、雑誌に反映されるように願ったのである。読者投稿欄は、雑誌記事のなかでもとりわけ重要な要素のひとつであった。投書欄は読者の「生の声」ではないにしても、仮構としての理想の状態・境遇や自己像が現れるとも考えられ、積極的に自己をアピールした。そこには読者における「同じ思い」・「同じ心」を共有する架空のコミュニケーションの世界、すなわち想像の「読者共同体」が存在したのである。ここでは読者共同体の形成過程とその特質について、各雑誌投稿欄の記事より明らかにする。

本研究課題のおおまかな骨子は、次のとおりである。

- (A) 近代における児童教育雑誌の内容とその特色
- (B) 児童教育雑誌の成立とその意義
- (C) 「子ども読者」の誕生とその特徴
- (D) 「読者共同体」の存在意義と特徴

この課題研究を今後遂行するために、先行研究の蓄積が既に存在する明治期を概観しながら、とりわけ大正期・昭和戦前期に刊行された児童雑誌を中心に扱う予定である。大正自由教育の動きの中で、影響を受け、さらに多くの読者を獲得したとされる『赤い鳥』・『少女倶楽部』・『少年倶楽部』などについて取り上げることで、それまでの国家主義のもとで築かれた子どもらの思想とは異なり、新たな「読者意識」の特徴やその変化などが見てとれると考えるからである。

本研究の特徴は、従来雑誌の歴史や特徴を

分析・考察してきた雑誌研究・人物研究等ではなく、読者の視点にたった雑誌研究すなわち読者の心性に焦点を当て、「作文」を資料とする斬新的な手法で、読者の感性・意識を読みとるものである。方法論として「作文」を使用するが、これまでは一次資料としての扱いではなかったものの、読者のオーバーな感情・思惟で表現されている。それは事実を超えるほどの生の声であり、事実の底に潜んでいた真情が表れており、価値あるものと見ることができる。

3. 研究の方法

(1) 基本文献の整備

近代児童雑誌（復刻版も含む）およびそれに関する文献を整備するため、設備備品費を使用して『日本児童文学大事典』、『児童文学事典』等の関連図書を購入する。

(2) 資料の悉皆収集と整理

近代児童雑誌の資料（史料）を悉皆収集すること、またその整理が必要となるため、国内旅費を使用して大阪（3泊4日を予定している）に赴き、さらに消耗品費・その他を利用して大阪国際児童文学館に所蔵されている『赤い鳥』・『金の船』（『金の星』）・『少年倶楽部』・『少女倶楽部』・『童話』等の閲覧・複写などを行い、整理する。また中之島図書館にも出向き、児童雑誌に関する文献調査も行なう予定である。なお大阪国際児童文学館を集中的に閲覧・利用させていただき配慮から、当館長および職員の方々に謝金等を支払う。

(3) 近代児童雑誌に関する内容および特徴の考察

近代児童雑誌に関する内容および特徴を分析・考察するには、前田愛『近代読者の成立』や川村邦光『オトメの祈り—近代女性イメージの誕生』、成田龍一『少年世界』と読者する少年たち—一九〇〇年前後、都市空間

の中の共同性と差異」『思想』第 854 号、岩波書店所収)、岡谷英明「『幼年雑誌』にみる読者共同体の教育史的意義」(『日本の教育史学』第 36 集所収)等のこれまで蓄積のある先行研究についてまとめ、おもに明治期に発行された雑誌の特徴や読者共同体の意義についてふれる。大正期以降については、このたび資料調査において閲覧・複写する『赤い鳥』などを悉皆調査・収集し、その後に行なう。

4. 研究成果

<平成 20 年度>

本研究課題は「近代日本における児童教育雑誌の成立と読者共同体の成立過程に関する研究」であり明治期以降にわが国に登場した児童教育雑誌がいかなるかたちで作成され、それが子どもの読者を通じてどのような影響を与えたのかについて分析を試みるものである。また今後明らかにしようとする課題として掲げた

(1)「明治期から昭和戦前期に発行された児童教育雑誌を考察し、児童教育雑誌の特徴を分析し、その特徴を明らかにする」については、大正期から昭和戦前期に焦点をあてた児童雑誌の分析は進められてきた(『赤い鳥』・『金の船』(後継雑誌『金の星』)・『幼年倶楽部』など)が、明治期刊行の雑誌については『幼年の友』のみを扱っただけに止まっているため、次年度の研究課題に繰り越した。

(2)「明治期から昭和戦前期における『子ども読者』の年齢層およびその特徴を明らかにする」ことについては、およそ明治期から昭和戦前期までにかけて、おおかた幼稚園児(3歳)から小学校高学年(10歳)ごろまでの読者が多いことが分析により明らかになった。

<平成 21 年度>

昨年来から明らかにしようとした。

(1)「明治期から昭和戦前期に発行された雑誌を考察し、雑誌の特徴を分析しその特徴を明らかにする」については、昨年度に引き続き大正期から昭和戦前期に焦点をあてた雑誌読者分析を進めてきた。(『幼年の友』・『幼年世界』・『少年世界』・『少年界』・『小学少年』・『小学少女』等)すべての刊行雑誌の分析はできなかったものの、明治期以降の読者像・読者意識の性格や特徴については、「国家主義」の思想と「良妻賢母」・「立身出世」思想のメルクマールとして結びついていることが多く、愛読者仲間とともに勉学、優秀作品投稿など互いに切磋琢磨することで絆を深めた。女子読者は特有の「女性言葉」を使用することで、仲間意識を高め、共同体の形成につながっていった。当初の研究目的についてはおおむね明らかにすることができた。

(2)「明治期から昭和戦前期における『子ども読者』の年齢層およびその特徴を明らかにする」ことについても明治期から昭和戦前期までにかけて大方幼稚園児(3歳)から小学校高学年(10歳)ごろまでの読者が多いことが分析より明らかになった。

(3)「想像上の『読者共同体』の形成過程を考察し、その特徴について明らかにする」ことについては、大正期から昭和戦前期にかけて発行された児童雑誌の多くは、多くの読者を獲得しながら、自然に「読者共同体」を形成していることがわかってきた。また男子読者・女子読者によって共同体の特徴が異なる点や結束力の強さの違いについても明らかになった。また「児童読者」については、わが国においては明治期からすでに存在し、おもに「少年」に近い意味で使用されていたこと、さらに大正期以降になると、とりわけ「小学生以上の少年・少女」を指すものに変化してくることも児童雑誌分析より見いだすこ

とができた。研究課題としては、他の近代におけるわが国の少年雑誌・少女雑誌の読者分析についても行うことを現在考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ① 田中 卓也、近代児童雑誌『金の船・『金の星』における作品選者群像—子ども読者とのかかわりを中心に—、中国四国教育学会 教育学研究紀要、査読無、第 54 巻 (CD-ROM 版)、2009 年 3 月 31 日、107～112 頁。
- ② 田中 卓也、近代児童雑誌『幼年の友』にみる読者意識、関西教育学会 関西教育学会年報第 34 巻、査読無、2009 年 6 月 30 日、56～60 頁
- ③ 田中 卓也、近代少年雑誌における読者に関する一考察—明治期から昭和初期における『少年世界』読者の特徴を中心に—、順正短期大学研究紀要第 38 巻、査読無、2010 年 3 月 31 日、15～26 頁
- ④ 田中 卓也、近代児童雑誌の投書欄および読者意識に関する研究—実業之日本車刊行雑誌『幼年の友』と博文館刊行雑誌『幼年世界』の子ども読者を中心に—、日本幼児教育学会 幼児教育学研究第 17 号、査読有 (掲載予定) 2010 年 6 月刊行予定、11～19 頁

[学会発表] (計 14 件)

- ① 田中 卓也、児童雑誌『幼年倶楽部』における子ども読者意識、日本子ども学会第 5 回子ども学会議、2008 年 9 月 27 日～9 月 28 日、於奈良女子大学 【ポスター演題発表】
- ② 田中 卓也、近代児童雑誌『幼年の友』にみる読者意識、関西教育学会第 60 回大会、2008 年 11 月 9 日、於大阪教育大学柏原キャンパス

- ③ 田中 卓也、近代児童雑誌『赤い鳥』にみる読者の様相、九州教育学会第 60 回大会、2008 年 11 月 24 日、於熊本大学教育学部
- ④ 田中 卓也、近代児童雑誌『金の船』『金の星』における作品選者群像—子ども読者とのかかわりを中心に—、中国四国教育学会第 59 回大会、2008 年 11 月 30 日、於愛媛大学教育学部
- ⑤ 田中 卓也、児童雑誌『金の船』・『金の星』にみる読者共同体の性格、名古屋近現代史研究会主催 12 月例会、2008 年 12 月 13 日、於名古屋大学文学部第 130 小会議室
- ⑥ 田中 卓也、児童教育雑誌『幼年世界』にみる読者の様相、全国地方教育史学会第 32 回大会、2009 年 5 月 24 日、於北海道教育大学函館校
- ⑦ 田中 卓也、児童雑誌『幼年世界』における読者投稿欄についての一考察、中部教育学会第 58 回大会、2009 年 6 月 27 日、於名古屋大学教育学部
- ⑧ 田中 卓也、東京博文館出版児童雑誌の読者の様相に関する一考察—『少年世界』・『幼年世界』を中心に—。日本子ども学会第 6 回子ども学会議、2009 年 9 月 12 日～9 月 13 日、於お茶の水女子大学教育学部 【ポスター演題発表】
- ⑨ 田中 卓也、近代児童雑誌の投書欄および読者意識に関する研究—実業之日本車刊行雑誌『幼年の友』と博文館刊行雑誌『幼年世界』の子ども読者を中心に—、日本幼児教育学会第 17 回大会、2009 年 9 月 14 日、於敬愛大学
- ⑩ 田中 卓也、児童向け雑誌『小学少年』・『小学少女』の読者に関する一考察、広島大学教育学部日本東洋教育史

研究会 9 月例会、2009 年 9 月 26 日、
於広島大学教育学部 A 棟 5F 鈴木理恵
研究室

- ⑪ 田中 卓也、近代児童雑誌における読者の様相に関する研究－『幼年雑誌』・『少年世界』児童読者を中心に－、日本乳幼児教育学会第 19 回研究大会、2009 年 11 月 14 日、於川村学園女子大学
- ⑫ 田中 卓也、近代少年雑誌『少年界』に関する一考察－読者の分析を中心に－、関西教育学会第 61 回大会、2009 年 11 月 15 日、於大阪樟蔭女子大学・短期大学
- ⑬ 田中 卓也、近代少女雑誌『少女界』の読者に関する研究、中国四国教育学会第 61 回大会、2009 年 11 月 22 日、於島根大学教育学部
- ⑭ 田中 卓也、児童向け雑誌『幼年幼女』・『幼年園』の読者に関する一考察、日本保育学会第 63 回大会、2010 年 5 月 23 日、於松山東雲女子大学短期大学【ポスター演題発表】

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田中 卓也
吉備国際大学・社会福祉学部・講師
(0866) 22-9418

研究者番号：90435040

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：